

# 見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち

## November 2015 vol.19

November						
S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

### ほうしゃくいん 宝積院

所在地：南知多町内海北向

交通：海っ子バス「大井戸」停 東約100m

南知多町は愛知県の二つの大きな半島の西側、知多半島の先端にある町で、観光業や水産業がさかんです。半島の先端に位置することから、地震の際に津波が襲来する恐れのある地域が広がっており、愛知県が公表した被害予測調査においても、20分程度で高さ30cmの津波が到達し、最大7-10mに及ぶ可能性があることが示されています。

この南知多町内海に、南知多三十三観音霊場にもなっている曹洞宗の宝積院というお寺があり、嘉永7（1854）年の安政東海地震の際に、敷地の入口まで津波による浸水があったという記録が、郷土研究誌みなみ第50号に掲載されています。（国土地理院の「標高がわかるWeb地図」（[http://www.gsi.go.jp/johofukyu/hyoko\\_system.html](http://www.gsi.go.jp/johofukyu/hyoko_system.html)）によれば、入口付近の標高は6m前後）

記事では『同日（嘉永七寅十一月四日）四ツ時（午前10時）より津波押来る 内海二而大汐満上りより七尺位高満致候（大潮より7尺ほど高く満ちた） 晩方迄二七度差引御座候（7度ほど満ち引きがあった）』『東端村町内へ津波押込候所、慈光寺坂下より宝積院脇入口迄（東端村の慈光寺の坂下から宝積院の脇入口まで津波が押し寄せた）』とあり、津波



宝積院

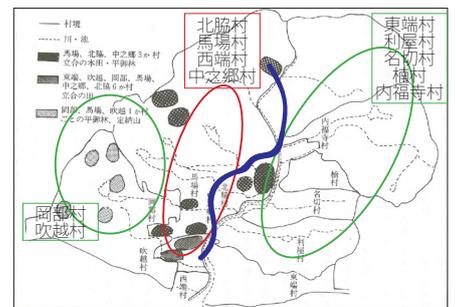
による舟などの被害も記載されています。また、この前段には『嘉永七寅十一月四日朝五ツ半時（午前9時）大地震 東端村 無難 利屋村・岡部村 同断（無難） 北脇村 九分痛 西端村 八分痛 中之郷

村 六分痛 馬場村 四分痛 吹越・名切・桶村・内福寺村 少々痛 久村 四分痛』などとあり、午前9時ごろに地震による揺れがあり、約1時間が経過した後の午前10時ごろに津波が襲ってきた、ということがわかります。

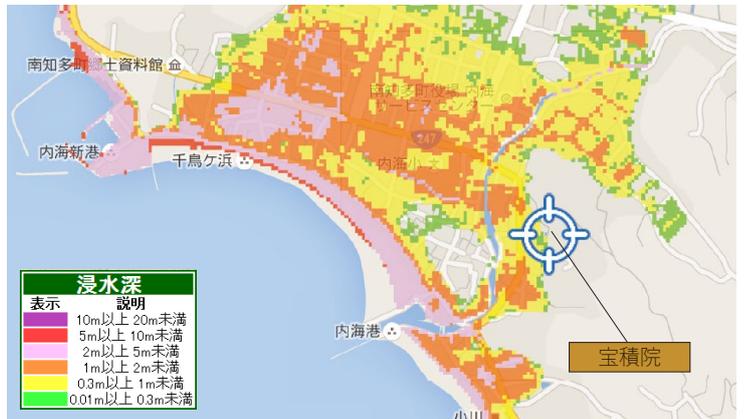
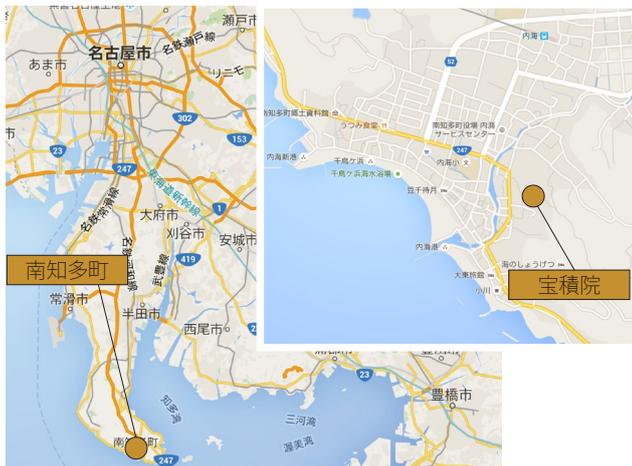
このように、揺れを感じてから、場合によってはその揺れが小さくても、海岸線に近い場所では、やがて津波が襲ってくる可能性が高いことを十分に頭に置いておく必要があります。海辺にでかける際には、避難ルートをチェックしておくなど、事前に少し準備をしておきましょう。

ところで、『東端村 無難…』の部分は地震の揺れによる被害を示していますが、無難及び少々痛（被害わずか）の東端村・利屋村・名切村などの村々は内海川の東側、岡部村・吹越村は内海川の西側の川から少し離れた場所であり、四分～九分痛（それなりの被害）の北脇村・馬場村・西端村などの村々は内海川のすぐ西側です。愛知県の防災学習システムで土地条件図を見てみると、内海川の東側及び西側の川から離れた場所は山地・丘陵地・台地の地形に、内海川のすぐ西側は砂堆・砂州の低地や後背低地の地形となっており、揺れによる被害の発生した内海川のすぐ西側が、揺れやすい地盤になっていることがわかります。

こうした被害の記録から、あらためて土地条件の重要性を感じ取ることもできます。



内海谷立合村の図（南知多町誌を加工）



愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査（平成23-25年度）による浸水深（愛知県防災学習システムより引用）

◆ 地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

## ◆ 宝積院の周辺には…

### ● 甘露寺

所在地：知多郡美浜町河和北屋敷

交通：名鉄河和線「河和」駅南約700m

甘露寺は、江戸時代には城主水野氏の祈願所とされていましたが、明治初年の頃から殆ど無住となり荒廃しました。昭和初期から再建がはじまり、昭和13年には庫裡の改築、書院の建立がありました。昭和19年(1944)昭和東南海地震によって本堂が被害を受けました。この本堂は、昭和24年に再興されています。



### ● 安楽寺 (章魚阿弥陀如来)

所在地：知多郡南知多町日間賀島字里中

交通：師崎港または河和港からフェリー

本堂手前のお堂に阿弥陀様が祀られています。この仏様は、大昔、日間賀島と佐久島との間の島が大地震により陥没し、ここにあった筑前寺の仏像の胎内仏が引き上げられたものと伝えられています。そのとき、1匹の大たこが仏様を守るように抱きついていたので「章魚(たこ)阿弥陀」と呼ばれています。

このお寺は、昭和20年(1945)三河地震の際に、本堂に大きな被害を受けて、大修理が行われています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をご覧ください。

## ★ 南知多コスモス街道

南知多コスモス街道は、知多半島道路の豊丘ICから県道280号に出た道で、500mの道沿いに200万本のコスモスが咲いており見ごたえ満点です。花の品種は赤、ピンク、白など大輪の一重咲きのセンセーションです。付近にはエビせんべいで有名な鯛まつりひろばがあります。また、少し先には観光農園花ひろばがあり、こちらで



はコスモスのほか、11月下旬までひまわりも見ることができます。



## 11月のあいちの花

平成27年11月のあいちの花はシャコバサボテンです。



シャコバサボテンはブラジルの山岳地帯が原産で、サボテンと名がつくため暑さに強いイメージがありますが、寒さに強く夏の暑さに弱い傾向があります。流通している園芸種はシャコバサボテンを品種改良したものが多く、デンマークカクタスやクリスマスカクタスという名前で売られていることがあります。

## ● ブレイクタイム ●

### ♪ ビアシティ南知多

ビアシティ南知多は国道247号沿いの海岸線近くにある地ビールレストランで、醸造プラントも備えており、カウンター席からはビールが作られていく様子を見ることができます。

地ビールとして、飲み慣れた味の「知多マリンビール ピルスナー」、すっきりとした飲み口でビール酵母入りの「知多マリンビール ヴァイツェン」が用意されているほか、明治時代に半田の丸三ビールで作られていたカブビールも味わうことができます。



『ビアシティ南知多』

所在地：南知多町大字内海字口揚4-1

交通：名鉄知多新線「内海」駅徒歩30分

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減災の会(仮称)・名古屋大学減災連携研究センター 平成27年11月)